



一般社団法人Jミルク



Jミルクは、全ての持続可能な開発目標の達成に向け、持続可能な食料システムへの変革のための具体的な行動を推進するために開催されるFSSへの支持を表明します。

持続可能な食料システム、特に「栄養・供給の両面にわたる食料安全保障」「食料消費の持続可能性」「環境に調和した農業の推進」の実現に貢献するため、日本政府の「みどりの食料システム戦略」及び世界の酪農セクターである国際酪農連盟(IDF) とグローバル・デーリー・プラットフォームと連携し「デーリー・サステナビリティ・フレームワーク」などの国際的な枠組みを活用しながら「酪農乳業戦略ビジョン」を、酪農家・乳業者・研究者・政府などと一体的に進めます。

【具体的な取組・目標】

- ①世界の酪農乳業セクターが進める「学校給食プログラム」の活動と連携し、子ども達のバランスの取れた栄養に不可欠な学校給食牛乳の安定供給に貢献します。
- ②牛乳乳製品の安定供給を通して、日本人の栄養課題であるカルシウム不足や塩分過剰を補いつつ、植物性食品と動物性食品をバランスよく組み入れた、持続可能で健康的な日本型の食事パターンの維持に貢献します。
- ③「アニマルウェルフェア・労働環境」「温室効果ガスの削減・物質循環型の生産」「家族経営の安定と発展、地域社会への貢献」について、数値目標を設定し推進に努めます。

【関連情報】

『国連食料システムサミット2021に向けて～Jミルクコミットメント～』

<https://www.j-milk.jp/news/unfsscommitment.html>

